

ののしる声

埼玉県 坂田 良秀

- ソ連の数ある収容所の中でも、過酷だったことでは屈指のブカチャーチャ収容所。復員後まとめた腰折れの中から幾つか拾い出して、苦難の日々を振り返ってみます。
- ・ 太く長き松を擔ひて帯鋸にかけつつ汗垂る氷点下四十度（製材所）
 - ・ 故障して機械止まれば足凍え故障起きざれば八時間休みなし
 - ・ カンテラを危ぶみながら坑木の朽ち並ぶ下にトロツコを押す（炭坑）
 - ・ 将校集合と聞けば営倉入りの準備して収容所長の前に並びぬ（作業成績を上げよと時々威嚇される）
 - ・ 素裸の隊員を並べて下帯の虱探すも隊長らがつとめ（朝の点呼後、時には臨時）
 - ・ 一匹の虱が居りて「隊長は営倉を望むか」と女医ののしり
 - ・ 霊名簿を小さくたたみ水筒の栓のキルクをうがちて隠す（複写し三人で分け持つ）

以上第一ラゲルの生活から